

## 税制調査会（第12回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成29年10月16日（月）15時13分～

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

### ○中里会長

本日の会議では、「納税実務等を巡る近年の環境変化への対応」について議論を行い、その中で「税務手続の電子化等」を中心に事務局からの説明の後、委員の皆様から御意見を頂戴しました。後半に「国際課税について」という議題のもと、国際課税を巡る最近の議論の動向や、BEPS行動計画を踏まえた現在の検討状況などについて事務局から御説明をいただき、かつ委員の皆様から御議論を頂戴しました。

今回は、引き続き、経済社会の構造変化に対して税制としてどのように対応していくかという観点から、個人所得課税について、所得再分配機能の回復や、多様な働き方に対応した仕組み等を目指す観点から議論を行えればと思っております。また、それに加え、外部有識者の方から、ICT化を踏まえた経済・社会の現状等についてヒアリングを行う機会を設けられればと考えています。

### ○記者

若干細かいかもしれませんが、今日、会議の中で年末調整について電子化を進めるという内容がありましたが、資料の図などを見ているとマイナポータル絵が描かれているのですが、もし今後、税制改正大綱などにその話を盛り込んでいくときにマイナポータルをその中に入れて利用するというのはすぐにできるものだとお考えかどうかお聞きしたいのですが。

### ○中里会長

それは難しい質問ですね。

御承知の通り、年末調整の制度は、所得税について、皆さんもそうでしょうけれども、納税者の多数を占める給与所得者の納税手続を簡便化して、社会的なコストを抑制する仕組みとして長年用いられてきたということが大田先生の規制改革推進会議の答申等でも言われているところです。これを前提として、年末調整をいかに納税者の利便性の向上のために効率化して、電子化していくという、その発想が何よりも先にあるわけです。

ところが、マイナポータルにつきましては、会議の中でも出たと思いますが、まだ現実に本格運用がスタートしておりませんので、今ここで私がこうしろと言ってもなかなか難しく、今後それをどう生かすかということを考えていくことなのではないかと思うのです。

ただ、マイナポータル仕組みをしっかりとつくる上では、むしろ皆様の方から国民の声を取材していただいて、このような考えもあるということを当局あるいは私でも結構ですから、お伝えいただけたら非常に勉強になると思っております。

中途半端なお答えですみません。

○記者

これで終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○中里会長

お世話になりました。

よろしく願いいたします。

[閉会]